

PHJ ピープルズ・ホープ・ジャパン ニュースレター NEWSLETTER

CONTENTS

東日本大震災支援

南相馬心療カウンセリング支援事業について

PHJ 海外出張メモ

カンボジア コンボンチャム州
大農業地帯とそこに住む人々

支援団体訪問レポート

人と人とのつながりを大切に
成田コスモポリタンロータリークラブ

海外事業

助産の現場は、いま。

カンボジア：助産師同士がつながりあい、成長できる環境へ。
ミャンマー：新しい分娩施設で女性が出産できるようになるまで。



PHJのお知らせ掲示板

第59回運営委員会開催報告

5月23日に全日本病院協会の会議室にて第59回運営委員会を開催しました。会に出席した12名の運営委員、16名のオブザーバーの方々に向けて活動の報告を行いました。

はじめに2019年度の事業の進捗や決算見込みについて説明し、その後各国の活動報告を行いました。カンボジアに関しては新規事業である「コンボンチャム州子どものケア支援ネットワーク強化」について、カンボジア所長代理の中田好美が活動の背景と現状を説明しました。ミャンマーは「ミャンマー農村地域の母子保健サービス改善事業」の進捗と活動の要となる母子保健推進員についての説明をミャンマー事務所の真貝祐一が行いました。

その後、東日本大震災支援の南相馬心療カウンセリング支援事業ではPHJスタッフの横尾が概要を説明。現場でカウンセリングを実施している米倉有香臨床心理士

にカウンセリングで改善した症例などを具体的にお話しいただきました。

オブザーバーの方からも具体的な質問が多くあり、関心をもって参加いただきました。



第59回 運営委員会

カンボジアもぐもぐお話し会 開催報告

5月25日土曜日の昼に吉祥寺アムリタ食堂でPHJ主催のイベントを開催し、12名の方に参加いただきました。海外事業部長で現在はカンボジア事務所長代理を務める中田好美が、PHJで働くに至った経緯や、カンボジアの農村地の状況や活動について、スライドで説明しました。

アムリタ食堂のタイ料理を食べていただきながら、お話を聞いていただきました。なかには熱心にメモをとる参加者の方もいらっしゃいました。お話し後は「現地の人にとっての幸せとは」「知ることの大切さとは」など、参加者同士で話が広がり、話が尽きませんでした。参加いただいた皆様ありがとうございました。



編集後記

この3月にカンボジアを訪問したときに、空港に向かう車の中でドライバーがポルポト時代の話をしてくれました。同じ国の人間同士なのに騙しあったと何度も言っていたことが印象的でした。内戦時の傷跡の深さを改めて感じた出張でした。

発行：認定NPO法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン

発行責任者：佐野廣二 編集人：南部道子 発行日：2019年6月19日

連絡先：〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL:0422-52-5507 FAX:0422-52-7035

ホームページ：<https://www.ph-japan.org/>

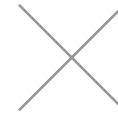
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。



助産の現場は、いま。

母子保健分野の改善活動において鍵となる助産師の人材育成や分娩施設といった建物の支援。PHJでは両方の側面から支援しています。人材の育成も、施設での分娩推奨も一筋縄ではいかない活動ですが、どのように活動を進めたのか、現場で働く人やサービスの受け手はどう感じているのか、をお伝えします。

Cambodia



Myanmar



Japan

カンボジア

助産師同士がつながりあい、成長できる環境へ。

PHJの活動拠点であるコンボンチャム州ストウントロン保健行政区にある保健センターで働く助産師の半数以上は高卒後1年で育成された准助産師です。充分な知識と臨床経験がなく、また現場で指導できる人材がいない。そんな課題を抱えた地域で、PHJは母子保健改善事業の一環として、新卒の助産師も含め准助産師を対象としたトレーニングの開催、その後のフォローアップ研修を実施。加えて助産師の日々のスキルアップに向けて情報共有と研修を行う「助産師連携チーム（MCAT）会議」の開催支援を行いました。活動が浸透したいま、現場で働く助産師さんなど関係者にお話しを聞きました。

ポリンさん（34才）
アレアットノー保健センター保健センター長、助産師
私は助産師でかつ、保健センター長でもあるため、会計、各月の実績データ処理や医薬品管理などセンター運営も担っています。助産師の仕事は夜勤があり、体力や忍耐が求められますし、多様な症状に対応できる適切な知識とスキルが必要です。



かつて一人で分娩介助をしていた時、胎盤遺残からの出血などが起こったことがありました。なんとか処置をして搬送し母子が助かった時は安堵しましたが、非常に怖かったです。助産師としての知識やスキルを磨くためにも、PHJのトレーニングや保健行政区事務所での助産師連携チーム会議は重要だと思います。

スレイニーさん（29才）
クポッタゴン保健センター准助産師
〔正助産師の資格を取得するため現在休職して助産師学校で勉強中〕

准助産師として卒業後に保健センターで働き始めたとき、とても大変な仕事だということもわかりました。看護師よりも長時間労働で、分娩は緊張を強いられ忍耐も必要です。時々、難産に行き当たり、逃げ出したく



ミャンマー

新しい分娩施設で女性が
出産できるようになるまで。

ミャンマーの妊産婦死亡率は10万件のうち178（参照 World Health Statistics, 2016 WHO）と他のASEAN諸国と比較しても高く、ミャンマー政府は妊産婦死亡率削減のため、施設分娩を推奨しています。

PHJ母子保健プロジェクトを実施しているタツコン郡の村のなかには、サブセンター（一次医療施設）の建物自体がなく助産師の自宅で診療をしていたり、施設があっても分娩室が備わっていないかったりと、村にある医療施設では安全に出産できる環境が整っていま



分娩施設の完成直後



保健教育を通じた施設分娩の推進

せん。そのため、病院まで行くことができない妊婦さんは自宅分娩を選択せざるを得ない状況です。

そこで、PHJは企業や日本NGO連携無償資金協力の支援を受け、過去5年においてサブセンター3棟の建築、分娩室1室の増築をしました。

施設が完成しても分娩施設としての利用は月に1件あるかどうか。施設分娩はすぐには進みません。そこでサブセンターで母子保健教育を定期的に開催したり、施設で出産をした女性に具体的なメリットを語ってもらったり、地域のボランティアを通して、妊婦さんを助産師に照会したりと、施設の利用を多角的に進めました。

その結果ある地域では、過去半年間のサ

なるくらの恐怖を感じますが、ここでこの女性と赤ちゃんの命を守るのは私の責任なのだと言いつつも聞かせています。さらに経験を積み正助産師になったらクポッタゴン保健センターに戻って村のために働き続けたいです。

ラリンさん
保健行政区 母子保健担当（写真中央の女性）



PHJと他団体の協力で2017年から助産師連携チーム会議を開始し、NGOの支援がなくなった今でも会議を継続しています。この会議がなければ助産師はケースを共有し、学ぶ機会はなく、孤立していました。保健行政区も保健センターで助産師が何を課題として悩んでいるかが分かりませんでした。今後とも会議を継続し、センターと病院の連携も強化して村人によりよいサービスが届けられるように尽力したいです。

（インタビュー PHJカンボジア事務所 プロジェクト・アシスタント シノル）

ブセンターでの分娩率が全体の分娩数の1/4を占めるようになり、病院での出産も含めると施設分娩が100%になりました。

現在も2施設を建築中です。村の女性が安全に出産できる場所の選択肢を増やし、母子共が健康に過ごせる地域になることを目指しています。

*NTTファイナンス株式会社、大塚製薬株式会社、ダンヒルジャパン各社の支援によります。

VOICE

コミュニティの声

サブセンターで3人目の子どもを出産

エーエーモさん 36歳



2019年3月16日にアレージョンサブセンターで男の子を出産しました。上2人の子どもの時は自宅で伝統的産婆の介助の元で出産しました。3人目なので出産後の合併症の危険性や、隣人の勧めもあって、サブセンターで出産することにしました。また、母子保健推進員（村のボランティア）からの勧めでサブセンターで開催されている母子保健教育へ参加したときに、助産師から自宅出産と施設分娩の違いを聞いたことも、サブセンターで出産するきっかけとなりました。実際にサブセンターで出産してみても、灯りや水の確保などの問題もなく、助産師介助の元、安全に出産できました。従妹にもサブセンターでの出産を勧めたところ、彼女もそこで無事に出産しました。



カウンセリングルーム

南相馬市に自立可能な心療カウンセリング施設を構築する。2019年1月から心療カウンセリング事業の支援を開始しました。堀有伸医師が院長を務める「ほりメンタルクリニック」において、米倉有香

臨床心理士の心療カウンセリングや心理検査費用の支援を行っています。1月から3月までの間で、心理検査20件、カウンセリング依頼者8名、38コマのカウンセリングを実施しました。(心理検査は知能や精神状態の確認)

【カウンセリングの必要性】

南相馬のような被災地では、震災時にトラウマになるような恐ろしい体験をしたり、その後の復興に至るまでの困難な道のりの中で深く心を傷つけられながらもそれを仕方ないことと捉え、ケアをされることもないまま、いつしか心身の不調につながる方も多くおられます。

心身の不調を感じられている患者さんの中には、薬物療法のみでは問題の解決が難しく、毎週もしくは隔週程度の頻度で1時間程度の、カウンセリングを含む心理療法を行うことが望ましい方もおられます。

【この3か月で改善した症例】

(30代女性) 4年間薬の副作用と不安感に苦しまれていましたが、3回の心理療法で、症状が改善。その後は仕事と家事の両立をして、日常生活を普通に送ることができています。

心療カウンセリング事業

事業目的	地域に居住する人々のメンタルヘルスを向上させる
事業内容	1. 心療カウンセリングルームを開設しカウンセリングを実施する 2. 関連団体と心療支援ネットワークを構築する
事業運営	Phase 1 ほりメンタルクリニック (2019年) Phase 2 新規創設団体
受益者	南相馬市および周辺地域に居住する人々 心療カウンセリングは週1日の場合、年間延べ人数は最大300人

PHJ 支援内容

支援事業名称	南相馬心療カウンセリング支援事業
支援内容	南相馬市に自立可能な心療カウンセリング施設の基礎を作る
支援期間	2019年1月～2021年12月
総支援額	3年間で1650万円(三井住友信託銀行、(株)アシストからの寄付を含む災害支援寄付金)

福島県 南相馬市

東日本大震災支援

南相馬心療カウンセリング支援事業について

大農業地帯とそこに住む人々

PHJ海外出張メモ
My Business Trip to Cambodia

3月初めにPHJの支援地であるカンボジア コンポンチャム州の農村地をめぐってきました。支援地の今の様子を写真を交えてお伝えします。

首都プノンペンから車で北東へ3時間。農業地帯のコンポンチャムに到着します。車窓から見える広大な大地にはゴム、カシューナッツ、たばこの葉の畑が広がります。メコン川流域の肥沃な大地に恵まれたこの地域ですが、農村地は電気、水道、ガスなどのインフラはなく、簡素な住まいに住む人がほとんど。農業で生計を立てていくことは厳しいことを物語っています。続々と新しいビルが立ち並び変化が著しいプノンペンと農村地の経済格差の広がりは歴然としています。最近ではタイヤ

カンボジア コンポンチャム州



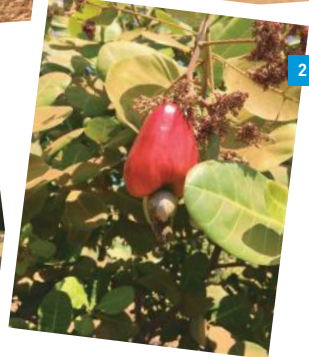
5



3



1



2



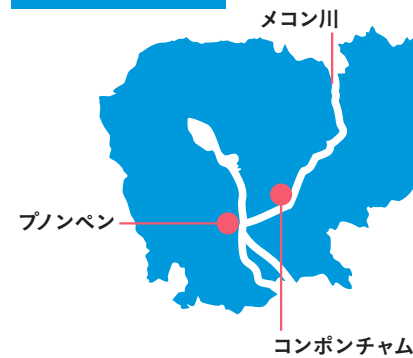
4



6

- 1 どこまでも続く畑
- 2 カシューナッツの実
- 3 村の子どもたち
- 4 カンボジア名物の家ごと引っ越し中
- 5 保健センターにきた産後の女性と赤ちゃん
- 6 結婚式の飾り

カンボジア



韓国などに出稼ぎに出る人が多いこと。出産したばかりのお母さんも、働きに出るために、母乳から粉ミルクに切り替える準備をしていました。農村地域でも、出稼ぎで建てたであろう立派な家を見かけることもあり、村の中でも明らかな格差が生まれていることを感じました。

出張中のコンポンチャムでは何度も結婚式に遭遇し、子どもにもたくさん会いました。気になったのは、年齢に対して子どもの体が全体的に小さいこと。離乳以降の栄養状態がよくないのかもしれない。私たちの「子どもの健康支援活動」を通して少しでもこうした状況がよくなることを願うばかりです。(広報・南部)



2019年4月1日代表を仰せつかりました佐野廣二です。ご存知のようにPHJは1997年1月プロジェクトHOPEジャパンとして設立され、2006年4月ピープルズ・ホープ・ジャパンとして新たなスタートを切りました。その理念はプロジェクトHOPEから継承し22年目に入りました。



PHJ 東京事務所
ピープルズ・ホープ・ジャパン
代表 佐野 廣二



PHJ 3種の神器の一つ目は、「保健、医療の増進を図る活動」として世界各国の人々に対する健康及び医療環境の改善と向上に向けて国際協力に寄与すべく支援事業を展開しています。2つ目の「災害医療支援活動」では近年、地球温暖化の影響も重なり世界各国で巨大な自然災害が連続するようになり、保健医療環境や体制も大きく変化しています。このような、皆様の募金をベースにした支援活動も柔軟に展開して行きます。3つ目の「国際協力活動」では開発途上国の保健医療自立支援活動(教育中心)も東南アジア(カンボジア、ミャンマー)で定着してきました。各国の経済成長は続いておりバランスの良い協力支援ができるように活動を展開して行きます。

加えて「持続可能な開発目標(SDGs)」達成取組みも進めています。PHJではゴール3「すべての人の健康と福祉」、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」の達成を目指しています。「SDGs」を掲げている賛助会員の皆様と共にゴール3・5・6達成に向け協同した活動を進めて行きます。

この先PHJ 3種の神器の活用・展開を盤石なものとするために、保健医療環境の変化に柔軟に対応しながら五ゲン主義(現地・現物・現実を直視し、原理・原則をもって対応する)

を貫き原点回帰した活動を展開してゆきます。

世界のすべての人にとって健やかで幸せな日々が持てますように微力を傾けて努力してまいります。皆様のこれまで以上のご支援を賜りますようお願いしてお願い申し上げます。私の就任の挨拶とさせていただきます。



PHJ カンボジア事務所
プロジェクトマネージャー
石山 加奈子

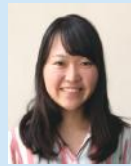
今年4月からPHJカンボジア事務所プロジェクトマネージャーとして就任しました。以前も発展途上国で様々な人道支援活動を行ってきましたが、母子保健の分野での活動が一番やりがいがあると感じています。健康は、人間が幸せであるための一番基本的なことであると思っています。カンボジアでの業務は初めてですが、今までの海外での経験を生かして現地の文化や考え方を理解・尊重しながら、現地のスタッフと協力し合い、プロジェクトを遂行していきたいです。

これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。



半田 玲子

こんにちは。5月より週1日インターンをしている半田です。ホームページのインターン募集を拝見し、大学生を対象にしているのかなと思いましたが、日々大きく応募させていただいた、社会人インターンです。週4日は、株式会社キャンサースクランというヘルスケア関連の会社で働いています。大学生の頃から、将来は途上国の地域振興に何らかの貢献ができる仕事につきたいと考えており、この度念願叶って動かさせていただきましたことになりました。遅咲きの新人ですが、どうぞよろしくお願ひいたします！



東京事務所インターン
横井 春奈

4月からPHJでインターンをさせていた上智大学2年生の横井春奈です。私が国際協力に興味を持ち始めたのは高校2年生の夏にカンボジアに行ったことがきっかけです。貧富の差に驚き、ほかにも衝撃的なことがたくさんあり、将来は途上国の支援に関わる仕事につきたいと考えているようになりました。主な仕事内容はホームページの更新やイベントのチラシ作りなどです。ですが、スタッフの方がとても優しく、新しいことをたくさん学ばせていただいています。PHJの活動をたくさんの人に知っていただけるように頑張っていきます。これからよろしくお願ひいたします。



2009年から10年にわたり成田コスモポリタンロータリークラブは、PHJカンボジアの事業への支援を続けています。また現地視察のためカンボジアを2年続けて訪問し、活動に対する理解を深めてくださっています。現地をみて感じたことや、社会奉仕や国際協力への想いを伺いました。



支援団体訪問

人と人との
つながりを大切に

成田コスモポリタンロータリークラブ



成田コスモポリタンロータリークラブ
奉仕プロジェクト統括委員会 委員長
藤崎 政弘 様

国際貢献に向けたさまざまな取り組み

国際貢献にかかわる事業として長期にわたる支援はPHJだけでなく、そのほかにも米山記念奨学会の奨学金制度や、青少年留学生プログラムもすすめています。海外の留学生、あるいは日本から海外へ留学する生徒に奨学金を出したり、さらに留学生のホスト役になって面倒をみることもあります。この先、海外と日本の架け橋となる人になってほしいという願ひもあります。



2019年3月コンボンチャムに2度目の現地視察

初めてのカンボジアの農村地で見たこと

PHJカンボジアの事業地を視察したのは、活動が現地でどのように役立っているのか知りたい、という想いからです。実際に支援地内の保健行政区や保健センター、看護師養成学校、農村地を訪問すると、様々なことが見えました。病院も、保健センターでも寄贈した書籍や医療器材が使われているということ、村の人と保健センターのスタッフや助産師さんをつなぐボランティアさんが欠かせない存在であること。PHJはいわば末端のところまで届く草の根の活動をしていることを実感し、感銘を受けました。

人間同士のつながりを大切にしている

モノやお金だけ送っておしまいという支援が多い中で、PHJは人と人とのつながりを大切にしながら活動を進めています。PHJのスタッフが農村地や医療施設に通い、保健教育を促進する地道な活動スタイルが、村の人たちや関係者に影響を与え、動かしているのだと感じました。新生児死亡率がまだ高いカンボジアで、国の宝である子ども達が力強く生きていけるように今後も継続的に支援していきたいと考えています。

地域の活動だけでなく留学生の受け入れなどさまざまな活動を活発に進める成田コスモポリタンロータリークラブ様。メンバー同士の絆も強く、人と人とのつながりを大切にしておられる団体だと感じました。